

I-14 令和6年度 原子力防災訓練実施結果検討会概要

1 日 時 令和7年3月19日（火） 午後2時00分～

2 場 所 青少年会館大ホール

3 参加者 自衛隊、海上保安庁など国の関係機関、関係市町、関係消防機関、県警察、
庁内関係課及び関係地域振興局等の担当者

4 関係機関から挙げられた主な課題

(1) 本部訓練関係

- ① 本部会議運営等の訓練が多く行われ、要員の実作業が限定的なものとなっていた。
- ② 県本部と各実動機関のリエゾン等と相互に情報共有するための地図、ホワイトボード、電話、FAX等の通信機器、広域避難計画等の緊急時に使用する各種計画・マニュアル類が整備されていなかった。
- ③ 県本部がN I S S（※）により国へ情報伝達を行う際、県現地災害対策本部への情報共有がされていない場合があった。
※ 国や自治体間の情報共有のため、緊急時の状況・活動内容を随時時系列に沿った形で記録・整理する等の機能を有する国のシステム
- ④ 複合災害時において、要員が参集できない事態を想定する必要がないか。

(2) オフサイトセンター関係

- ① 複合災害時は、県現地本部の業務に従事できる職員が限られていることから、より多くの職員の訓練参加が望ましい。
- ② 県現地本部内の連携・情報共有を図るため、活用可能なモニター等を追加配備してほしい。

(3) 避難退域時検査関係

- ① 安定ヨウ素剤を配布する際、県原子力防災アプリをダウンロードしていないケースや、同アプリに情報が事前登録されておらず、口頭で問診確認するケースが多く見受けられた。
- ② 住民検査で汚染された住民が確認された際に、検査前に待機箇所で座っていた椅子が除染されていなかった。

(4) 避難所関係

- ① 総合訓練だけでなく、地区ごとに部分訓練を順次実施し、現地の実動要員と本部の要員がその地区の課題等を共有すれば連携しやすくなると考える。

(5) 原子力災害時住民避難支援・円滑化システム関係

- ① 訓練参加者の多くが原子力防災アプリを登録しておらず、登録していても問診等を未入力の住民が多かった。
- ② ゴム手袋をつけたままの端末操作は困難なため、対応を検討することが必要である。

I-15 オフサイトセンター運営訓練後の振り返り概要

1 各機能班、各チームから出された意見

(1) 活動内容、情報の流れ

- ・ 事前説明資料により、訓練活動時の理解が概ね図られた。
- ・ 警察活動を実施する上で、必要な情報の入手先を確認することができた。
- ・ NISS を使用し、活動状況等のタイムリーな情報共有ができた。
- ・ チーム内での役割分担を明確化し、連携しながら対応できた。これまでのプレ訓練等で訓練を重ねていたため、スムーズな対応につながったと思う。
- ・ 転送先に漏れがあり、回答先に適切に届かなかつた事例があった。

(2) 他班、チームとの連携

- ・ 住民の避難状況の情報収集については、住民安全チームとの連携が必要であると理解した。
- ・ NISS を通じて、各チームの役割分担や連携を理解することができた。
- ・ 県現地災害対策本部と県災害対策本部会議、国機能班との役割分担を明確にしてほしい。
- ・ 他チーム所管の情報等の照会が当チームに届くなど、所管・役割の明確化が必要であると感じた。

(3) 機器の取扱い

- ・ 事前説明やマニュアルの活用により基本的な部分については理解できた。
- ・ NISS を実際に使用することで、使用方法を習得・理解することができた。
- ・ PC や電話機について、チームの人数に対して台数が不足しており、活動に支障が出る場面があった。
- ・ 機器の使用方法はおおむね理解できたが、NISS 等を含め改善が必要と感じた。

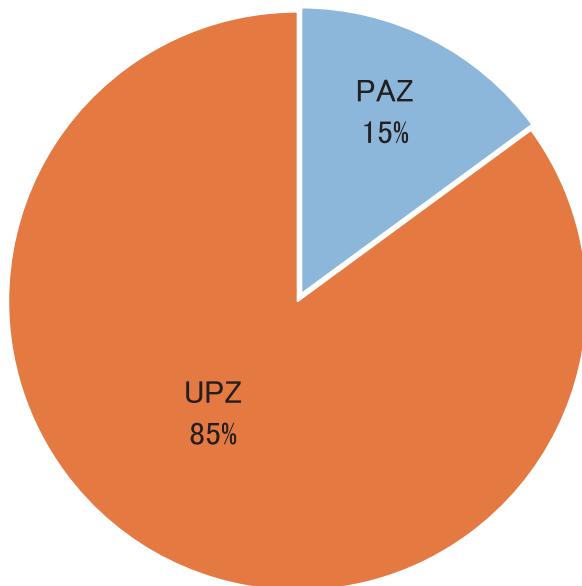
(4) 課題等

- ・ 有事に備えた良い訓練の機会となり、実効性を持たせるため、多くの職員の訓練参加が望ましい。
- ・ ブラインド訓練におけるスキップ時に前提の指示に時間を要したため、訓練がスムーズに行えない時間帯があった。
- ・ 限られた時間での資料印刷は困難なため、大型モニターを配備してほしい。
- ・ 複合災害においては、現地対策本部用務に従事できる職員が限られていることから、他部局間も含め、より多くの職員に訓練に参加してほしい。
- ・ 参集人員の検討及びマニュアルの見直しが必要と感じた。

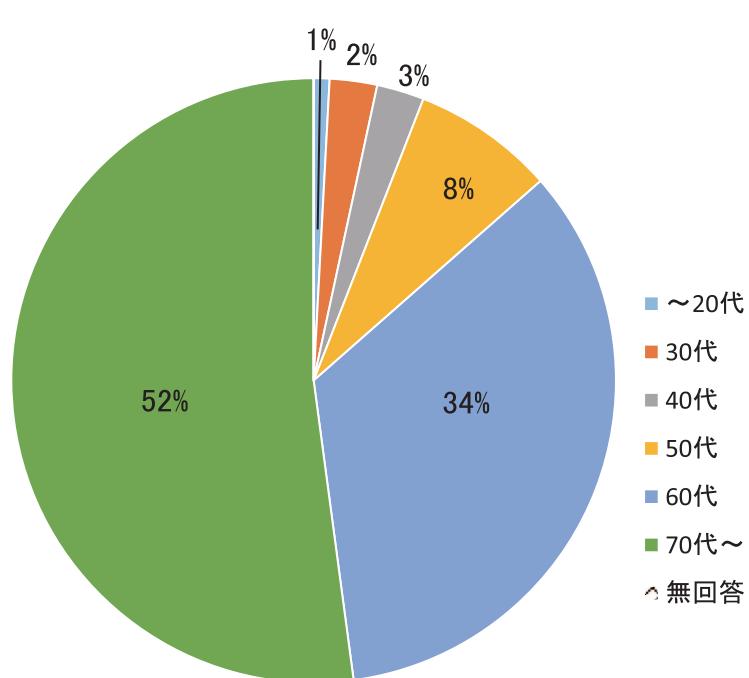
I - 16 原子力防災訓練参加住民アンケート結果

○ アンケート回答者数：355人

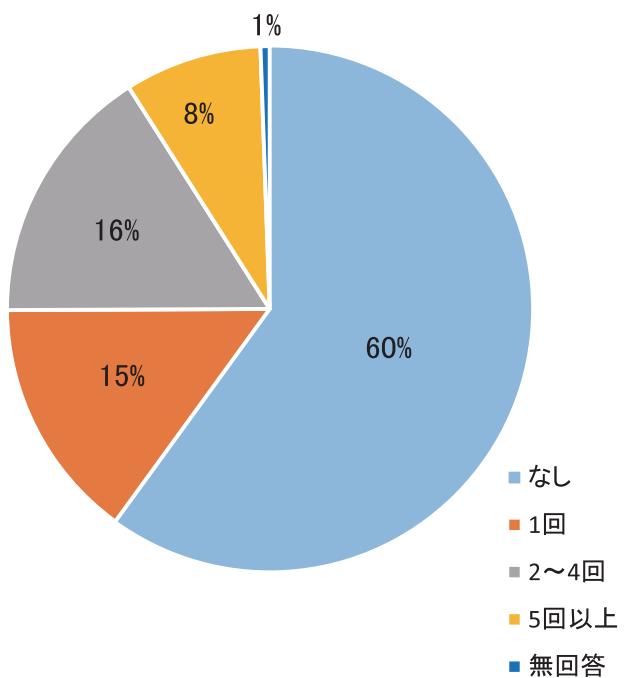
PAZ及びUPZ参加者の割合



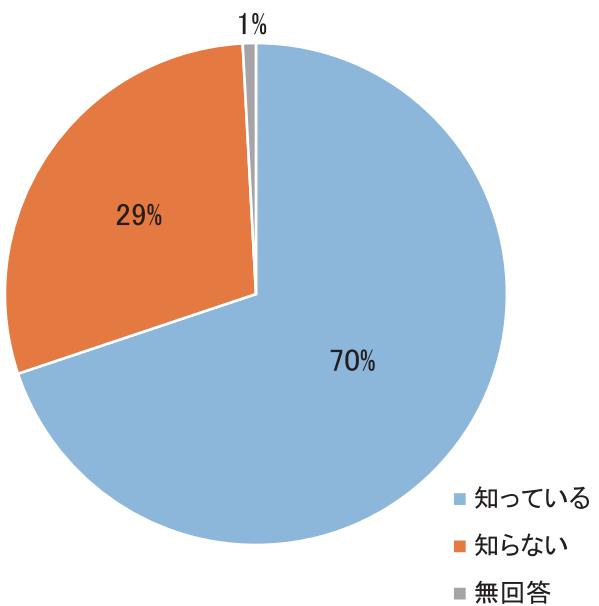
年齢層



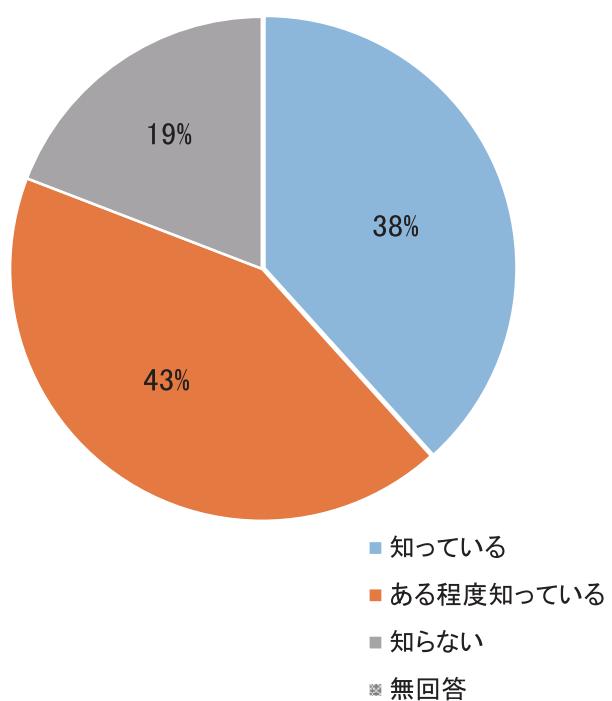
Q1 これまでに原子力防災訓練に参加したことがありますか？



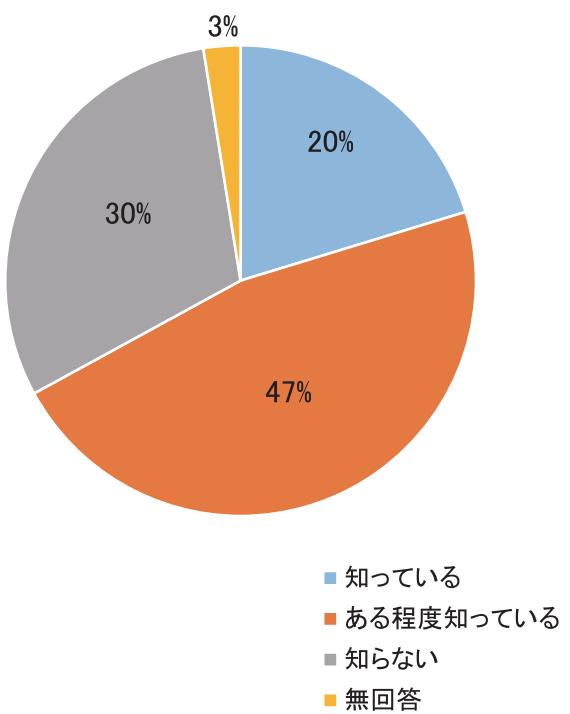
Q2 あなたのお住まいの地域の避難計画を知っていますか？



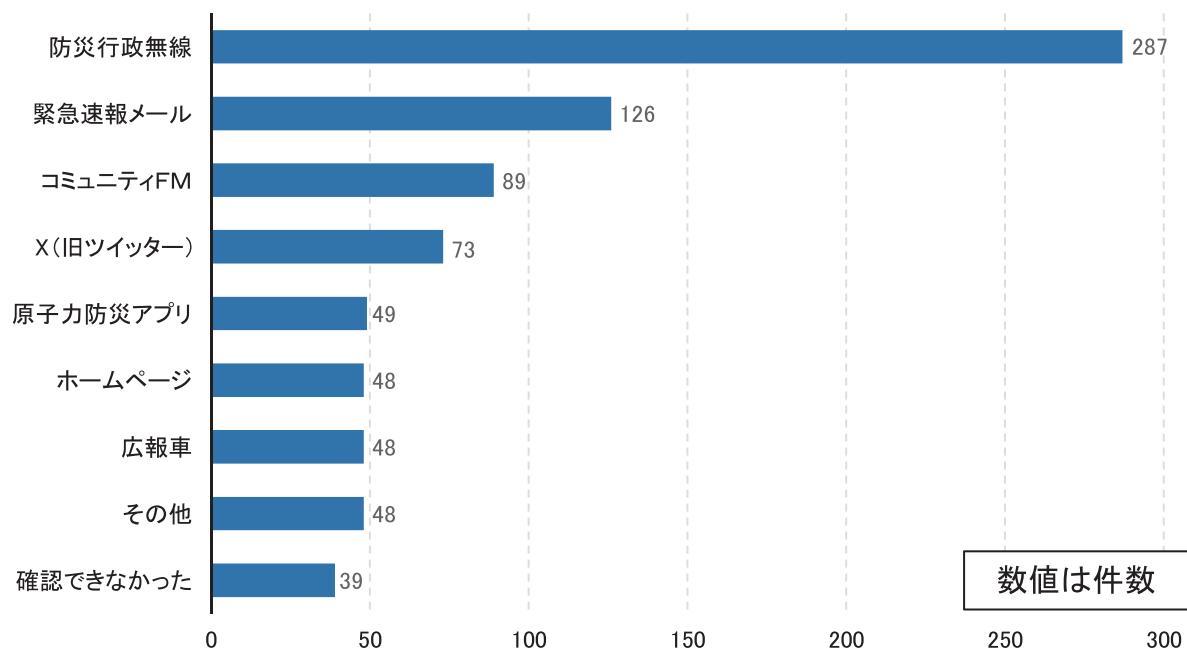
Q3 原子力災害時、あなたの避難方法(避難集合場所・避難先・避難ルートなど)を知っていますか？



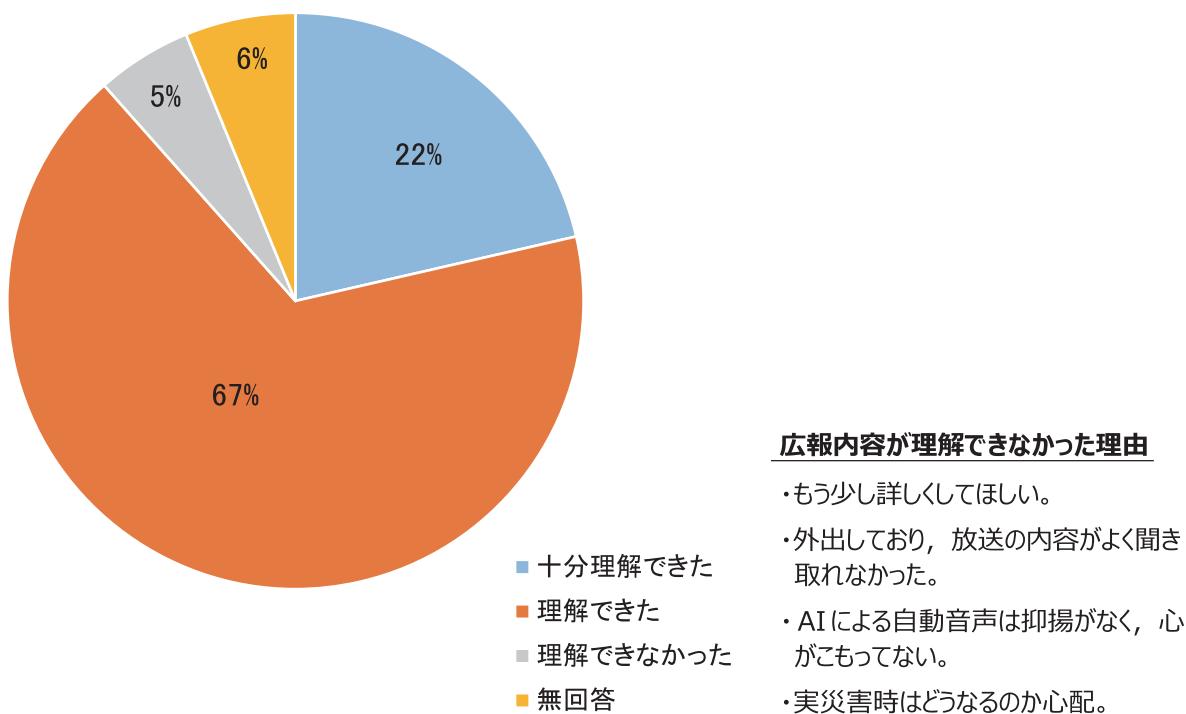
Q4 あなたのお住まいの地域では、いつ、どのような防護措置(屋内退避や避難など)を行うか知っていますか？



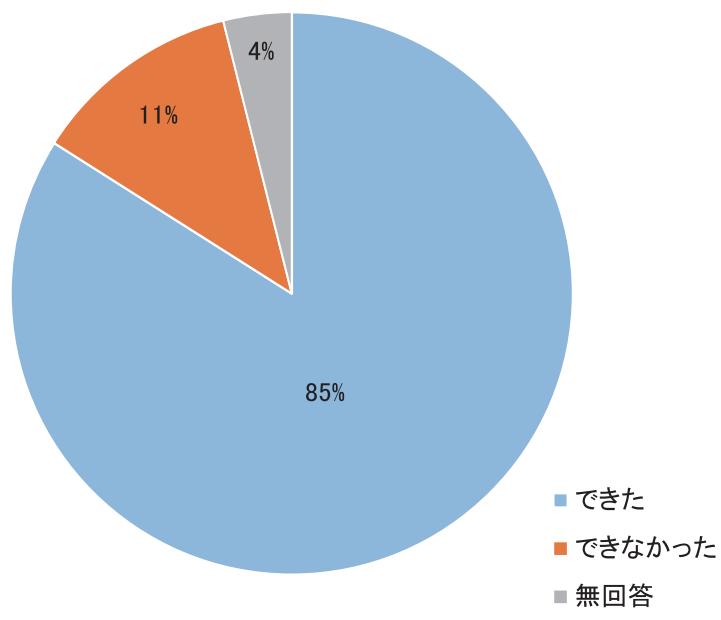
Q5-1 住民の方々へ避難や屋内退避の指示などを伝える広報訓練を行いましたが、何によってその指示内容などを確認できましたか？（いくつでも）



Q5-2 広報の内容（避難や屋内退避の指示など）は、理解できましたか？



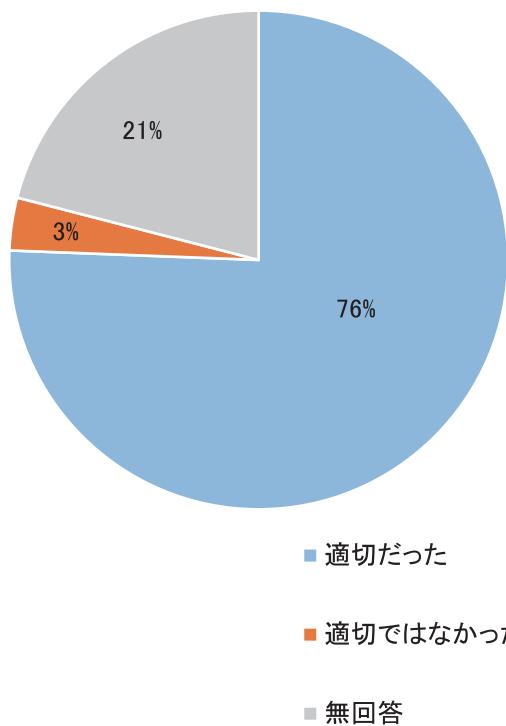
Q6 原子力防災アプリや紙のQRコードを使用した避難所等の受付はスムーズにできましたか？



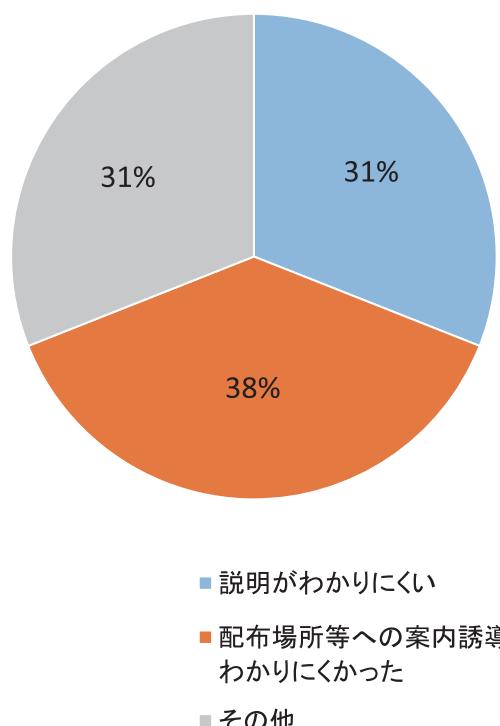
スムーズにできなかった主な理由

- ・スマホを持っていない。
- ・スマホの操作が難しかった。
- ・アプリをダウンロードしていなかった。
- ・QRコードを使ったことがなかった。
- ・急に雨がふって紙がぬれた。

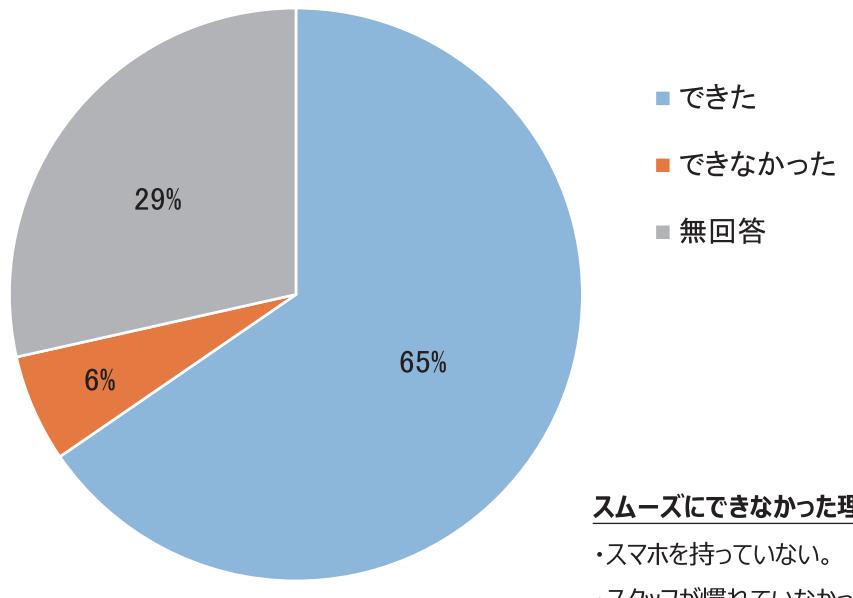
Q7 安定ヨウ素剤の緊急配布は適切でしたか？



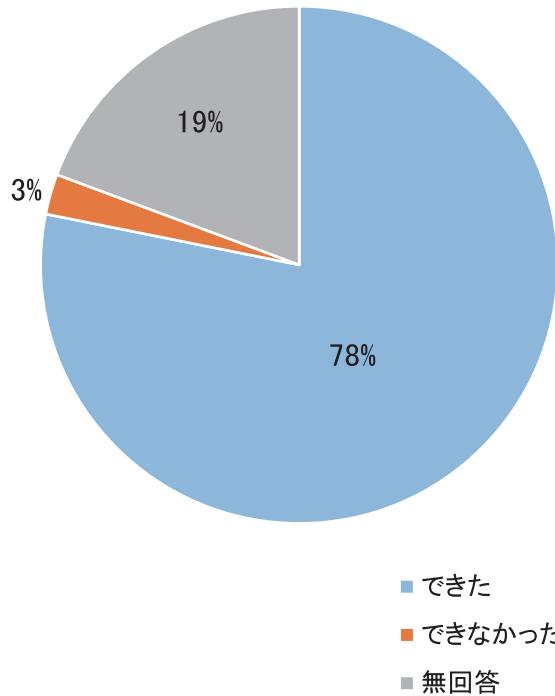
Q7-1 不適切とお答えの方は理由をお聞かせください。



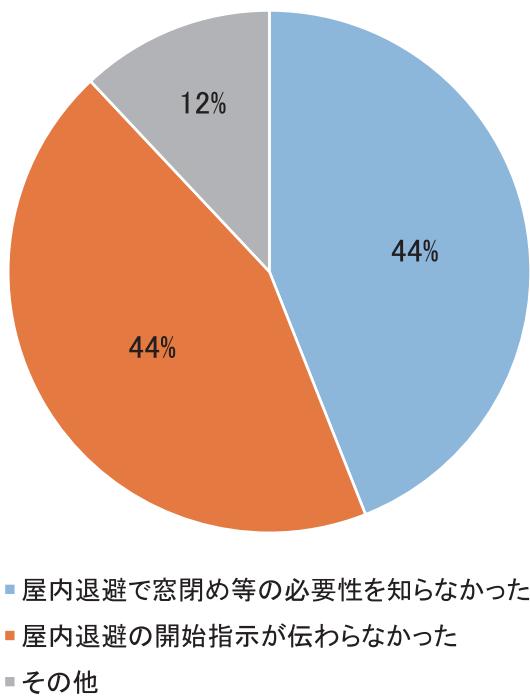
Q8 原子力防災アプリや紙のQRコードを使用した安定ヨウ素剤緊急配布はスムーズにできましたか？



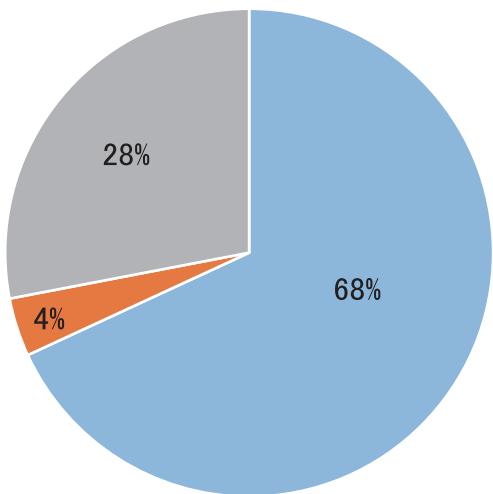
Q9 自宅又は避難所などの屋内退避はできましたか？



Q9-1 できなかったとお答えの方は理由をお聞かせください。

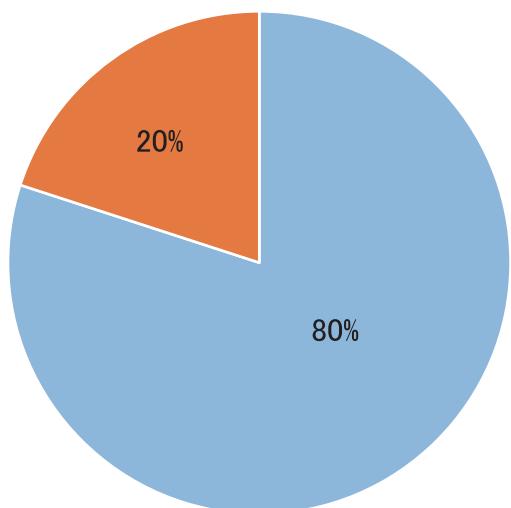


Q10 避難退域時検査場所での検査の流れは理解できましたか？



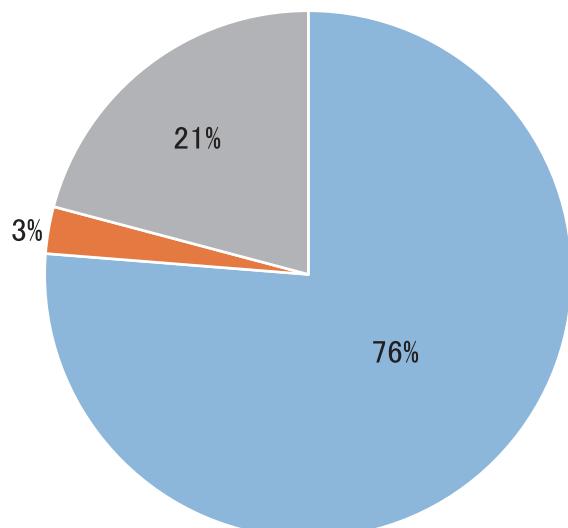
■ 理解できた
■ 理解できなかつた
■ 無回答

Q10-1 理解できなかつたとお答えの方は理由をお聞かせください。



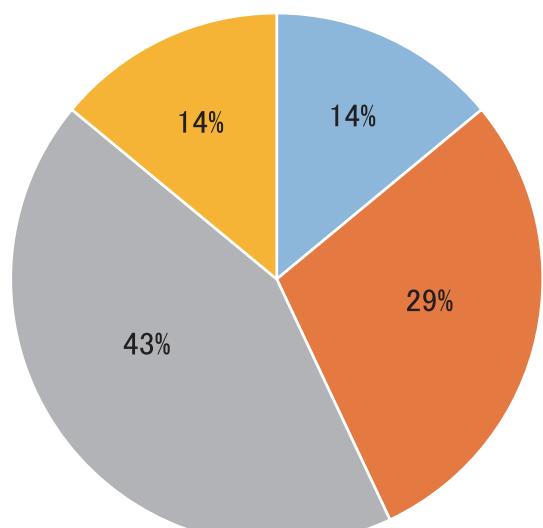
■ 検査場所での説明等が分かりにくい・聞き取りにくい
■ その他

Q11 避難所の受け入れ対応は適切でしたか？



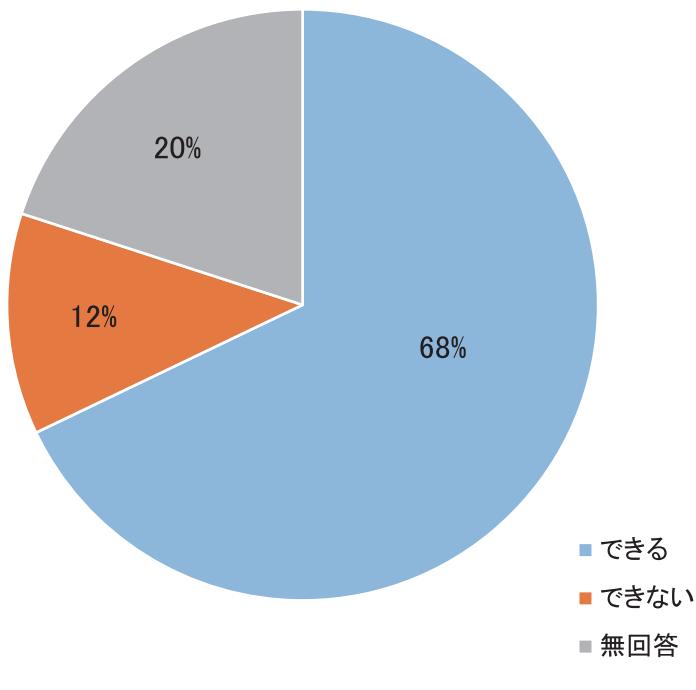
■ 適切
■ 不適切
■ 無回答

Q11-1 不適切とお答えの方は理由をお聞かせください。



■ 受付方法の説明がなかった・わかりにくかった
■ 避難所施設の説明がなかった・分かりにくかった
■ 避難所到着後の案内誘導がなかった・分かりにくかった
■ その他

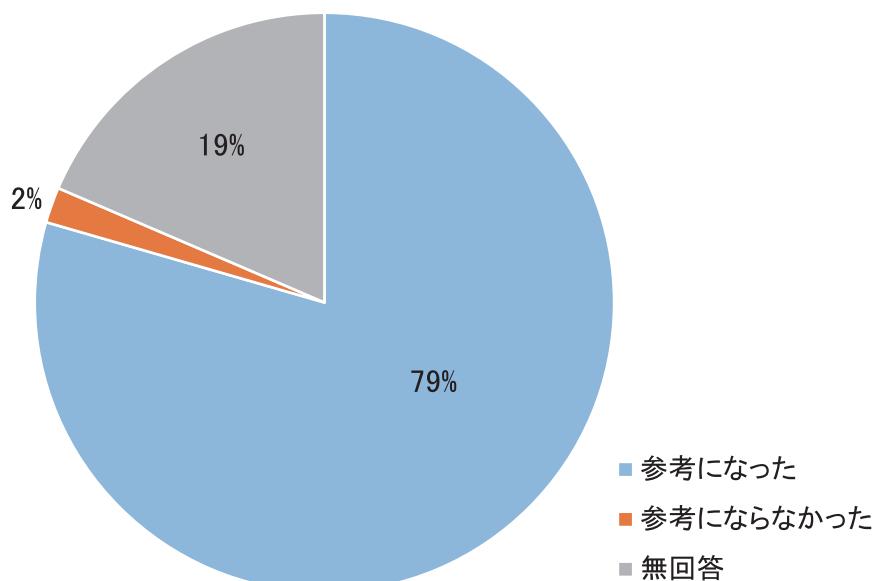
Q12 今回の訓練を体験して避難できると感じましたか？



できないと回答した主な理由

- ・避難指示の放送がないと避難できない。
- ・車での避難は渋滞して難しいと思う。
- ・停電時に安全に避難できるか分からない。
- ・高齢者の避難は体力的に不安。
- ・バスが足りるか不安である。
- ・災害発生時に落ち着いて行動できるか不安である。

Q13 防災講習会は参考になりましたか？



参考にならなかった理由

- ・内容が難しい。

主な自由意見

1 避難

- ・災害が発生したら避難時や避難場所等でのパニックが想定されるが、急ぐ必要はないという説明もあり安心しました。
- ・訓練なので時間等はある程度分かっているが、放送が集合場所に行くまでなかった。放送できない時は臨時の伝達方法を考えておく必要がある。(メールやLINEなど)
- ・実際の避難の場合、避難者の増大が予測されるため、今回の訓練をもとにスムーズな移動ができるように対応が必要。
- ・車いす、ペット同伴の決まりを知りたい。
- ・能登半島地震を踏まえた訓練を考えると避難経路の道路、橋の状況に不安を感じた。道路損壊や電柱倒壊等も考えられるので、避難バスが来れるのかもっと検証をする必要も感じる。
- ・高齢者等はトイレ休憩が多く必要。

2 防災講習会

- ・大学の先生による研修が大変良かった。
- ・地区公民館単位でも講習会、訓練は必要だと思った。
- ・今回の講演のような判り易い情報を広く市民へ提供する機会を増やして欲しい。
- ・福島原発事故の反省と教訓を感じることができなかった。

3 原子力防災アプリ

- ・防災無線で情報を得ましたが、無線が聞こえなかった時のためにアプリ登録が必要だなと思った。
- ・アプリの説明をくわしくして欲しい。